

■■メールマガジン「静岡県防災」第22号■■

富士山噴火に対する畏怖と「i f」

○宝永噴火

今から315年前の1707年12月16日、富士山が噴火しました。

南東側の山腹（現在の宝永火口）から噴煙が上がり、東麓や関東平野に大量の火山灰を降らせました。噴火は翌年の元日までの16日間続き、各地で甚大な被害が発生しました。

なお、この年は、10月に宝永の南海トラフ地震が発生していますので、噴火は地震の影響を受けた可能性があると考えられています。

○噴火により想定される被害

富士山が噴火した場合に想定される現象として、溶岩流、火砕流、降灰等が考えられますが、どのような現象が起きるのか、また、規模や噴火口の位置も事前には分かりません。

過去には、宝永噴火のように火山灰を降らせる噴火もあれば、貞観噴火（864年～866年）のように溶岩を流す噴火もあります。

○もしも噴火の兆候があった場合

気象庁が発表する噴火警戒レベル（レベル1～5）に応じた対応を取ります。

噴火後に被害が生じる可能性の高いエリアから、噴火警戒レベルに応じて、原則として「立退き避難」を実行することになります。

移動手段は、避難者の属性や状況によって異なりますが、徒歩または自動車等の活用を想定しています。

現在、県及び市町等において、最新の被害想定（ハザードマップ）を基に、影響を受ける地域を対象とした避難計画の策定を進めており、今後、策定次第、県民の皆様にお知らせいたします。

【参考】現行の資料リンク

富士山ハザードマップ（令和3年3月改定）⇒

<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanhazardmap.html>

富士山の噴火警戒レベル（気象庁）⇒

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/level/img/level_314_1.png

富士山火山広域避難計画検討委員会中間報告書説明資料 ⇒

<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanbousai.html>